

東京農工大学大学院 農学研究院
生物システム科学部門准教授 募集要項

1. 募集職名 准教授 (1名)
2. 所属先 農学研究院 生物システム科学部門
3. 兼務先 生物システム応用科学府 (大学院)
農学部 環境資源科学科
4. 応募資格 博士の学位を有し、化学全般の基礎知識を持ち、学部において物理化学や機器分析学などの講義を担当できる者。また、化学の特定分野の研究で先端領域を開拓できる者。博士後期課程 (博士課程) に在学する学生を実質的に指導した経験を有することが望ましい。更に、生物システム応用科学府が実施する教育研究プログラムの立案と運営に積極的に参画できる者。
5. 担当予定科目 (大学院) 超分子機能解析特論, 物質機能分析特論, 基礎技術演習 等
(学部) 物理化学, 機器分析学, 化学実験, 環境資源科学実験 等
6. 採用予定日 平成 31 年 3 月 1 日以降, できるだけ早い時期
7. 勤務条件等
 - 1) 給与 経歴・職位・職務内容に応じて, 本学の規程により決定 (各種手当あり)
 - 2) 勤務 裁量労働制 (7 時間 45 分/日)
 - 3) 任期 なし
 - 4) 定年 65 歳
8. 提出書類
 - 1) 履歴書 (写真貼付。学歴は高等学校入学以降を記載, メールアドレス明記)
 - 2) 研究業績目録 (学位論文, 原著論文, 著書, 総説, 特許, 受賞歴
招待講演実績, 外部資金獲得実績等を記載。外部資金については, 代表者と分担者の区別を明記)
 - 3) 研究業績目録に記載された原著論文や著書等のうち, 主要なもの 10 編以内の別刷または複写
 - 4) 教育実績目録 (これまで担当した講義科目, 主指導教員または副指導教員として博士前期および後期課程の学生を指導した実績を明記)
 - 5) これまでの教育と研究の内容と着任後の抱負 (2000 字以内)。備考欄 7) に関連し, 国際的に活躍できるイノベーションリーダーの育成に関する抱負についても明記して下さい。
 - 6) 応募者の研究, 人物について照会できる方 2 名の氏名と連絡先を記載した書類 上記 1) ~6) の書類を 1 冊のファイルに綴じ, 表紙に氏名を明記して下さい。
9. 応募締切 平成 30 年 11 月 22 日 (必着)
10. 選考方法 第一次選考 提出書類に基づいた書面審査
第二次選考 プレゼンテーション・面接
最終候補者一名については, 追加の面接選考が行われることがあります
※面接等に必要な旅費は自己負担となります
11. 書類の提出先 〒184-8588 東京都小金井市中町 2-24-16
東京農工大学大学院 生物システム応用科学府 梶田 真也 宛
(教員応募書類と朱書し, 簡易書留で郵送。原則, 応募書類は返却しません)
12. 問合せ先 東京農工大学大学院 生物システム応用科学府 准教授候補選考委員会 委員長
梶田 真也 (E-mail: kajita@cc.tuat.ac.jp, Tel & Fax: 042-388-7391)

13. 備考

- 1) 東京農工大学は、全学的な教員組織として「農学研究院」と「工学研究院」を設置しています。本公募において採用される教員（以下、本教員）は、農学研究院に設置された生物システム科学部門（構成教員9名）に所属し、主に教育組織である農学部環境資源科学科と大学院生物システム応用科学府で講義や学生指導等の業務に従事して頂きます。
- 2) 環境資源科学科には七つの研究分野があり、本教員は環境物質科学分野に所属して頂く予定です。
- 3) 大学院生物システム応用科学府は、生物機能システム科学専攻（博士前期、および博士後期課程）、食料エネルギーシステム科学専攻（リーディング大学院、5年一貫制博士課程）、および早稲田大学と共同設置する共同先進健康科学専攻（博士後期課程）の三つの専攻から構成されています。本教員は、主に生物機能システム科学専攻と食料エネルギーシステム科学専攻に係る種々の業務に従事して頂きます。
- 4) 生物機能システム科学専攻の学生定員は、博士前期課程が59名、同後期課程が12名です。一方、食料エネルギーシステム科学専攻の学生定員は10名です。
- 5) 生物機能システム科学専攻と食料エネルギーシステム科学専攻を担当する教員は、本教員を含めて26名です。内訳は、上記の農学研究院生物システム科学部門に所属する9名（教授4、准教授4、助教1）に加え、工学研究院に所属する17名（教授8、准教授8、助教1）です。
- 6) 上記のとおり大学院生物システム応用科学府には農工の両研究院に籍を置く教員が所属しており、農工連携、農工協働による教育と研究を実践しています。従って、本教員は農学系の教員に限らず、工学系の教員とも協力し、意欲的に教育と研究を推進することが必須です。
- 7) 本教員には、自身が独自にめざす教育と研究の深化に加えて、大学院生物システム応用科学府が実施すべき教育研究プログラムの立案や運営に積極的に参画することが求められます。特に、国際的に活躍できるイノベーションリーダーの育成を念頭に設置された食料エネルギーシステム科学専攻における教育活動に対しては、主体的に取り組んで頂きます。
- 8) 本学は学長をトップとする男女共同参画推進室を設置し、男女共同参画を推進しています。
- 9) 応募書類により得られる個人情報、准教授候補者の選考、採用時の給与や社会保険等の手続等に必要の場合に限り利用するものであり、これらの目的以外で使用することはありません。

以上